



健やかな学校生活のために

「新しい生活様式」の下での学校生活も約半年が過ぎました。どの学校でも、子どもたちの感染リスクを小さくするためにいろいろな対策を行っています。今後も有効な感染症対策を積み重ねて、感染拡大防止に努めてまいります。

これから冬を迎え、新型コロナウイルス以外の感染症も流行しやすくなります。学校での感染症対策とともに、ご家庭で引き続きご協力いただきたいことをお知らせします。

感染予防を「習慣」に ～学校での感染症対策～

学校での感染症対策は、『学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル』（文部科学省）をもとに、以下の対策を中心に行っています。また、四日市学校保健会においても、具体的な対策について、学校医、学校歯科医、学校薬剤師の先生方からご助言をいただきました。

子どもたちの成長の場や学習の機会を失わないよう、感染予防とのバランスを保ちながら、適切に対応をしていきます。

【四日市学校保健会】

医療・学校関係者、保護者等、様々な立場の方が集まり、学校の保健衛生に関する情報・意見交換や、研修会等の事業を行っています。

健康観察



毎朝ご家庭での検温、ありがとうございます。

学校でも健康観察を行い、丁寧に体調をみて、別室での待機や早退等の判断をしています。教職員についても、

同じように毎朝の検温と健康観察を行っています。

手洗いの徹底



手洗いはタイミングが大切です。食事の前後、鼻をかんだ後、共用のものを触った後、外出から帰った後、掃除の後などには、石けんを使った手

洗いをします。手洗いを丁寧にする事で、ウイルスを100万分の1まで減らすことができます。

マスクの着用



マスクは飛沫が飛ぶことを防ぐために使用します。学校では身体的な距離を保てない場合に着用を呼びかけています。それと共に、気温や周りの

状況に応じて、子どもたちが自分で判断してマスクの着脱ができるように指導をしています。

「3密」回避



3つの密（密閉・密集・密接）が重ならないようにすることが重要です。冬は暖房時も常に窓やドアを開けて換気をします

ので、教室が寒くなることもあります。衣服の着脱による体温調節ができるよう、ご協力お願いします。

感染症に関するQ & A

四日市学校保健会役員の先生方に聞きました。

Q1. 暖房を付けた教室での換気など、冬場の感染症対策を教えてください。

冬は空気が乾燥します。ウイルスは空気が乾燥すると拡散しやすくなるので、暖房時も、常に窓を少し開けて換気することが好ましいです。

しかし、教室内の空気の状態は夏とはずいぶん異なります。暖房時は温かい空気は天井にたまりやすいので、床付近との温度差が大きくなります。冷気が入りやすい廊下側などは足元が冷えるでしょう。教室内の温度変化に注意して、ドアや窓を開ける幅を調節する、また、扇風機を子どもに風が当たらないように弱く回して空気を循環させる等の工夫が必要です。冬場のマスクは、口や喉の加湿にも効果があります。引き続き着用しましょう。



会長 藤戸健司先生
(学校薬剤師)

Q2. インフルエンザと新型コロナウイルス感染症の違いは何ですか？

両者とも呼吸器感染症のウイルスですが、現時点では症状のみで明確な区別をつけることは困難だと言われています。ただし子どもの場合、インフルエンザは高熱を出しやすく、重症化してしまう場合があるのに対し、新型コロナウイルス感染症では軽症が多いと言われており、無症状の場合もあります。

インフルエンザは秋からワクチン接種をして重症化を予防することが出来ますし、感染した時には治療薬もあります。一方、新型コロナウイルス感染症については、ワクチンは開発段階であり、治療薬も確立されていません。

発熱などの症状がみられた場合には、電話でかかりつけの医療機関や保健所に相談してください。



副会長 渡邊真也先生
(学校医)

Q3. 子どもに軽い風邪症状があり、登校させるか欠席させるか迷う時があります。判断のポイントがありますか？

発熱の基準は一般的に37.5℃とされていますが、平熱には個人差がありますので、毎日の体温測定で「いつもより高いな」と感じる事があれば無理せず欠席した方がいいでしょう。一方、喘息やアレルギー性鼻炎などの持病があると、風邪のような症状が長く続くときがあります。その場合は、かかりつけの医療機関を受診して、ご相談ください。

新型コロナウイルス感染症の検査を受けることになったら連絡を

